

令和6年度 城北小学校 学校評価

1 令和6年度の実践

(キャリア教育で育てたい力 ♥人とつながる力 ♦自分の良さに気付く力 ♦課題に取り組む力 ♦チャレンジする力)

【徳】 みとめ合う子	【体】 きたえ合う子	【知】 みがき合う子
「ひと・もの・こと」にかかわり、命や心を大切にする子を育てます ♥相手の気持ちを考えて行動するための工夫 ♦自己肯定感を高めるための工夫	進んで挑戦し、最後までやり抜く子を育てます ♦自分の課題を見つけるための工夫 ♦進んで課題に取り組む場の設定	課題をもち、学び合いを通して、よりよく解決する子を育てます ♥考えを深めるための手立て ♦学ぶよさやつながりを実感させる工夫

2 評価比較 (回答数：児童 388/428 教師 25/28 保護者・地域 356/449)

項目内容 「城北小の子どもたちは～」1～10, 12	「そう思う ・まあそう思う」%		
	児童	教師	保護者 地域
1 子供たちのよいところ、頑張っているところを見つけて、伝えることができる。		91.3	90
2 友達のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	87.7	100	
3 自分のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	68.4	73.9	89
4 友達を励ましたり、友達に感謝を伝えたりすることができる。	90.1	82.6	84
5 友達や先生の話最後まで聞くことができる。	86.4	52.2	84
6 困っている友達を見かけたら、声をかけたり、助けたりすることができる。	83.2	100	86
7 相手の気持ちを考えて行動することができる。	78.4	60.9	83
8 授業のめあてや目標を意識して学習に取り組んだり、授業を進めたりしている。	77.3	95.6	82
9 外に出て元気に遊んだり、運動したりしている。	83.3	91.3	90
10 学習カードやワークシート（ミライシード等含む）を上手に活用して、学習を深めている。	77.9	81.8	85
11 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする授業に取り組んでいる。	81	91.3	84
12 授業の内容は分かりやすい、分かりやすい授業を行う工夫を積極的に行っている。	85.3	91.3	86
13 キャリア教育で身に着ける4つの力を意識させるような指導を行っている。	83.2	30.4	68

14「いじめは決して許さない」という姿勢で子供たちの指導を行っている。	89.9	95.7	88
15 職員（先生）は子供や保護者の話をよく聞こうと努めている。	87.5	100	87
16 保護者、地域の人たちの協力を得て、教育活動の充実に努めている、または協力してくれている。	89.5	100	89

3 「いじめ防止基本方針」の推進についてのアンケート結果（職員対象）回答数 26/28

	調査項目	できている、どちらかとい えばできているの割合
1	「学校いじめ防止基本方針」の計画に則った未然防止の取組（いじめの防止等に関する取組）を行っているか。	96%
2	いじめの未然防止に向けて、自分の役割を自覚して行動することができているか。	100%
3	自校のアンケートや「はまついいじめアンケート」の結果をいじめの発見に有効活用しているか。	88%
4	子供との関わり・観察や個人面談をいじめの発見につなげているか。	100%
5	いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めることができているか。	96%
6	子供や保護者の気持ちに十分寄り添い、傾聴しながらじっくり話を聴いているか。	96%
7	事実（いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ『5W1H』）を聴き取り、その事実のみ（主観は入れない）を記録に残しているか。	100%
8	「校内いじめ対策委員会」でいじめの認知をし、組織的な対応ができているか。	100%
9	いじめを受けた子供、いじめを行った子供の保護者に、いじめの事実関係や対応方針・経過をできるだけ早く、丁寧に説明しているか。	100%
10	いじめの解消に向けて、いじめを受けた子供、いじめを行った子供の気持ちを継続的に確認し、見守っているか。	100%

4 評価からの分析・考察

- ・ 2, 4, 6の項目から、子供たちが友達への思いやりをもっていることが分かる。しかし、7「相手の気持ちを考えて行動することができる」の項目では、教師はあまり感じられないと思っていることが分かる。子供たちは相手への思いやりをもつことはできているので、今後は相手の状況や気持ちを考える力を伸ばしていく必要がある。
- ・ 昨年度よりも3「自分のよいところ、頑張っているところを見つけることができる」子の割合はやや増えたが、他の項目に比べるとまだ低い。学年別にみていくと、高学年になるほどその割合はやや少なくなる傾向があった。
- ・ 子供たちと教師の感じていることの違いがいくつかの項目で見られたので、違いがあることをより意識して支援の方法を考えていきたい。特に大きな違いが見られたのは、5「友達や先生の話最後まで聞くことができる」の項目だ。児童と教師では、30ポイント以上の差があった。子供たちは話を聞く対象が友達と先生である。面と向かって話す友達の話を聞くことと、全体で教師の話を聞くこととは、様子が異なると考えられる。教師は全体に向けて話すときの聞く態度をイメージしているため、子供たちと大きくずれたのではないかと思われる。「聞く」ときの態度について子供たちと共有する必要があると感じた。
- ・ キャリア教育で身につける4つの力を意識することへの取り組みを続けてきたことにより、児童たちに定着している。この項目も子供たちと教師とで違いが大きい。それは、特別に教師が意識して提示しなくても、当たり前になってくるために違いがみられたのではないかと考えられる。
- ・ 「いじめは決して許されない」という意識は昨年に引き続き高い。児童に行っているアンケート結果を元に個人との面談の時間を取り、子供たちの気持ちを聞くことを大切にしたい。気になることは職員間で共有し、組織で対応したり、支援したりすることを続けている。
- ・ 「いじめ防止基本方針」の推進についてのアンケート結果からも、この方針を推進する意識は高い。

5 学校運営協議会による学校関係評価

- ・ いじめ対策については、子供の意識と教師の意識の差に注目して、これからも指導をしてほしい。
- ・ 学校評価アンケートの結果をみると、教師が誠意をもって取り組んでいる様子が分かる。
- ・ 学校評価の分析から、教師の熱い思いが伝わってきてうれしく思う。同じ方向を向いて動いていると感じる。一生懸命に子供たちのために動いていることが、子供たちにも伝わると思う。続けてほしい。
- ・ 主体性を育てることはよいと思う。ただ、宿題の方法などいろいろ変わる中で、基礎的な学力をつけることも大事にしてほしい。

6 今後の改善方策

- ・城北小学校の子供たちの「やさしさ」をこれからも大切にしていきたい。子供たちが自分たちで考え直した「5つのめあて」をもとに、良さを認めていく。また、5つのめあてを校内や地域に広めていく活動を考えられる場の設定もしていく。
- ・子供たちの自己肯定感が高まるように「応援カード」も活用してきた。次年度は、自他を受け入れ、認めていく心、すなわち多様性を受け入れる心を育てていく場面での活用も目指していく。
- ・子供たちが主体的に学習や活動に取り組み、それらが充実していくことで得られる達成感や楽しさを自信にもつなげていけるような授業や行事を行っていく。
- ・子供たちと大人とでは受け止め方や考えが異なることを前提に、学習や生活の場面で、子供たちと課題や考え、思いの共有をはかりながら、活動を進めてく。また、子供たち同士の協働的な学びを意識した授業も引き続き実践し、充実させていきたいと考える。大人を含めた他者とのコミュニケーションを活発にし、学び合うことを楽しめるような子供たちを育てていきたい。
- ・子供たちが安心して活動に取り組めるように、「いじめ防止基本方針」は全職員で共有し、日頃から子供たちの話に耳を傾け、これからも「いじめは決して許されない」という姿勢で対応していく。
- ・いじめ対策委員会、生徒指導委員会では、事例検討研修を行ったり、情報を共有したりして、普段からいじめ防止に役立てていく。